【特集】 東京パラリンピックに向けた岐阜県の障がい者スポーツの取組み

企画・制作／中日新聞広告局

躍動する障がい者アスリート

岐阜県は2012年に県内で開催された「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」を機に、継続して障がい者スポーツの取り組みを支援してきた。5年後には東京パラリンピックが開催され、障がい者スポーツへの関心の高まりも期待されている。今回は関係者らがその魅力やこれからの取り組みなどについて語り合った。

障がい者スポーツの魅力や取り組みについて語り合った（左から）松井逸朗県障害者スポーツ協会会長、古田肇知事、土田和歌子選手、中嶋茜選手＝県庁

座談会出演者
県障害者スポーツ協会 松井逸朗 会長　土田和歌子 選手
古田肇 知事　中嶋茜 選手

環境の整備・充実に全力

古田 肇 県知事

1947年岐阜市生まれ。71年東京大学法学部卒、通商産業省（現経済産業省）入省。羽田、村山内閣首相秘書官、外務省経済協力局長などを経て05年県知事に就任し、現在3期目。67歳。

――今後の障がい者スポーツに関する取り組みは。

知事 お二人の話をお聞きして改めてスポーツの持つ力を感じる。まさに、障がい者スポーツは障がいのある方の世界を広げるきっかけにもなり、同時に周りの方や地域に感動と活力をもたらす。県としても、障がいのある方がスポーツに親しみ、参加する機会を増やすため、例年春に開催する「清流スポーツ大会」などの大会に加え、各種スポーツ教室を新年度から5圏域に拡充する。また、競技力の向上を図るとともに、選手をサポートする競技団体の組織づくりも推進していく。ハード面でも、障がい者スポーツの拠点となるよう、岐阜市鷺山エリア福祉ゾーンに障がい者用の通年型屋内温水プールの新福祉友愛プールを新設するほか、障がい者用体育館の整備や、岐阜希望が丘特別支援学校のグラウンド拡張整備を予定している。

――岐阜県におけるスポーツに関する取り組みの原点ともいえる「ぎふ清流国体・ぎふ清流大会」から早くも2年半となった。あらためてぎふ清流大会を振り返ると。

松井 ぎふ清流大会は、ぎふ清流国体と同じレベルで扱っていただき、当事者の意思を尊重していただいた画期的な大会だった。県選手団も大いに活躍し、過去最高の成績を収めることができた。何よりも開閉会式では超満員の観客となり、13種のいずれの競技においても多くの方に障がい者スポーツを直接観戦していただけた。競技に取り組む真剣なまなざし、選手の熱い思いなどを肌で感じ、障がい者スポーツの面白さや迫力などをご理解いただき、障がい者スポーツを身近に感じていただけたと思っている。

知事 ぎふ清流大会は、準備段階から松井会長をはじめ、参加される人、支えていただく人からたくさんのご意見を伺った。岐阜メモリアルセンターのほか、各地の競技会場の観客席、スロープなどの施設改修を行うなど、競技に集中できるよう細部にわたり心を尽くし準備を進めた。私も、陸上や水泳を観戦し、選手、観客そしてボランティアといった多くの皆さんの一体感に大変感動した。「今までの大会にはなかった、きめ細かな心配りを感じた」などの感想も多く寄せられ、心のこもったおもてなしができたのではないかと感じている。

松井 昨年の全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会」では、総メダル獲得数が10位、金メダルの獲得数では7位という大変な好成績を収めることができた。ぎふ清流大会後も、古田知事の強力なリーダーシップのもと、競技力向上を後押ししていただいている成果が早速実を結んだものと思う。

――海外では障がい者スポーツへの関心が高いが、2012年ロンドンパラリンピックで日本選手団主将として陸上競技に出場された土田さん、ゴールボール競技に出場された中嶋さんは大会を通してどのようなことを感じたか。

土田 ロンドン大会は、北京大会でのけがを乗り越え、子育てなど家庭と両立しながら挑んだ。念願だったマラソン競技での金メダルは、来年のリオデジャネイロ大会に持ち越しとなったが、同じ目標を持つ家族や地域の皆さんに支えられ、とても充実した日々を過ごすことができた。マラソン競技は、42・195キロの間での選手同士の駆引きが魅力。日本人が持ち味を出すことができる競技なのではないかと考えている。

中嶋 ゴールボール競技会場も観客でいっぱいで、観客とプレーヤーが一体となって競技をしたという感覚が鮮明に残っている。たくさんの観客に応援されながらプレーできるというのは、選手としてとても幸せなことだと感じた。

土田 ロンドンでは、メディアが大きくパラリンピックを取り上げていたこともあり、注目度が非常に高く、学校の授業としても競技の観戦が行われていた。一方、日本では、障がい者スポーツを知っている、見たことがある、という方がまだ少ないのではないか。障がい者アスリートが、さまざまな壁を乗り越え、誇りを持って競技に取り組んでいる姿を知っていただけたらと思う。スポーツが人に勇気や感動を与える力があるとすれば、障がい者スポーツは、「生きることの意味」をより深く人々に伝える力を持っていると考えている。

中嶋 大会を終えて帰国した後、周囲から「競技を観たよ」「面白い競技だね」といった声が聞かれるようになり、国際的な大舞台で競技ができたことをうれしく思うとともに、自分の世界が大きく広がったと感じた。大きな大会を通して、障がい者スポーツを皆さんに少しずつでも知っていただきたいと思う。特に「ゴールボール」など障がい者スポーツならではの競技は、想像以上のドキドキワクワクを感じていただけると思う。

岐阜から世界に 選手育成

松井逸朗 県障害者スポーツ協会会長

1940年下呂市生まれ。2012年ぎふ清流国体・大会では準備から開催まで大きく貢献した。一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会、一般財団法人岐阜県身体障害者福祉協会会長。74歳。

御嶽育ちのアスリート期待

土田 和歌子 選手（東京都在住）

1974年東京都生まれ。日本人初の夏・冬パラリンピック金メダリスト。過去6回のパラリンピックに出場しロンドン大会では日本選手団主将を務めた。2016年リオ大会ではマラソン種目で悲願の金メダル獲得を目指す。八千代工業株式会社所属。40歳。

松井 県障害者スポーツ協会としても、障がい者スポーツの裾野の拡大や選手の発掘・育成など、さまざまな取り組みを実施している。例えば、毎年秋に障がい者も健常者も一緒に参加できる「長良川ふれあいマラソン大会」を開催しており、今年で第20回という節目を迎える。参加者全員が懸命にゴールを目指す姿は、見る者に大きな感動を与え、生きる力を奮い立たせる。分け隔てなく皆が一緒になってスポーツを行い、その姿をたくさんの方に見ていただくことが大切だと考えている。

――東京五輪・パラリンピックに期待することや思いを。

土田 成功に向け、日本全体が一丸となっていけるのではないかと今から楽しみだ。私自身も含め、様々なアスリートの声を反映させることも必要と考えている。また、岐阜県のような障がい者アスリートを応援する取り組みが全国に広がることを期待している。故郷のみんなが応援してくれると、本番で誰よりも力を発揮できると思う。また、飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアでは、このエリアを利用した青山学院大学の選手らが箱根駅伝で優勝するなど、多くの選手が成果を上げていると聞いている。私自身もこのエリアに大変興味をもっており、私がモデル的に利用することで、他の選手も利用しやすくなると思うし、地元も含めて選手の発掘にもつながるはず。今後、御嶽で練習を積んだ御嶽育ちの障がい者アスリートが活躍されることを期待している。

中嶋 今年度はけがに悩まされた1年だったが、周囲のみなさんに支えていただいたおかげで、今も競技を続けられている。これからも感謝の気持ちを忘れず、恩返しができたらと思う。また、私が中学2年の時に全日本の強化合宿が岐阜で開かれ、その時に初めて合宿に参加したことで代表選手に選ばれた。こうしたチャンスを活かしてもっともっと地元の選手が世界で活躍してくれたらと思う。私自身としては、ゴールボールを楽しみながら続ける中で、東京パラリンピックをきっかけに、皆さんにこの競技の面白さ、素晴らしさを知っていただきたい。

松井 多くの選手が岐阜県から世界に羽ばたいていただきたい。そのためには、全国障害者スポーツ大会のような大舞台で頑張った選手がパラリンピック日本代表に繋がるような仕組みを考えていくことで、障がい者スポーツ全体がさらに盛り上がっていくのではないか。その意味でも岐阜県の障がい者用プール、体育館などの整備は本当にありがたいこと。

知事 県では「清流の国ぎふスポーツ推進計画」を策定した。その大きな柱の一つが「障がい者スポーツの推進」だ。県ゆかりのパラリンピアンを、リオ大会で5名、東京大会で10名輩出することを目標に掲げている。世界の大舞台を目指して、競技力のさらなる向上と、トレーニング環境の整備・充実に全力で取り組んでいきたい。また、多くの方々に障がい者スポーツの感動を身近に体感していただけるような環境づくりを進めていきたい。そして、それが地域の活力づくりにつながることを期待している。

ゴールボールの魅力伝える

中嶋 茜 選手（岐阜県在住）

1990年中津川市生まれ。2013年日本福祉大学卒、ロンドンパラリンピックゴールボール競技において金メダル獲得。現在大垣市にある株式会社Notoカレッジ（障害福祉サービス事業所）にスタッフとして勤務。24歳。

羽ばたけ！ 岐阜県の障がい者アスリート

清流の国ぎふ

岐阜県ゆかりのパラリンピックアスリート

諸石光照（もろいしみつてる） 選手（ロンドンパラリンピック出場）
種目／車いすテニス クアードクラス

アジアナンバーワンプレーヤー。2016年リオパラリンピックでメダル獲得を目指す。（各務原市出身）
- 2012年ロンドンパラリンピック ダブルス4位入賞
- 仁川2014アジアパラ競技大会 シングルス金メダル、ダブルス銀メダル獲得

中嶋 茜（なかしまあかね） 選手（ロンドンパラリンピック出場）
種目／ゴールボール

日本ゴールボール協会提供　撮影：市川亮

ロンドンパラリンピックでは日本初の団体競技金メダル獲得に貢献。ゴールボール競技の魅力を伝えるため活動中。（中津川市出身）
- 2012年ロンドンパラリンピック 金メダル獲得
- 広州2010アジアパラ競技大会 銀メダル獲得

岩本啓吾（いわもとけいご） 選手（ソチパラリンピック出場）
種目／クロスカントリースキー

冬季競技期待の新人。経験を重ね2017年平昌パラリンピック出場を目指す。（飛騨市出身）
- 2013年ソチパラリンピック出場

岐阜県の障がい者スポーツの取組み

2020年東京五輪・パラリンピック開催に向け、障がい者スポーツへの関心、期待が高まる中、県では障がい者スポーツ推進をはじめ、スポーツの持つ力を最大限に活かし、岐阜県らしさや岐阜県の魅力を大いに発信していきます。

1. **パラリンピックを目指すアスリートの育成・強化**
   パラリンピックを目指すアスリートを中心に強化指定し、活動を支援します。
2. **障がい者がスポーツに触れる機会の提供**
   障がい者スポーツの大会、教室の実施などを通じて、多くの方がスポーツに触れていただく機会を提供します。
3. **障がい者スポーツを支える団体の育成支援**
   障がい者スポーツを支える競技団体の育成に係る支援を実施します。
4. **障がい者スポーツの活動拠点となる施設整備**
   岐阜市鷺山エリア福祉ゾーンに、障がい者用プール、障がい者用体育館を整備。岐阜希望が丘特別支援学校のグラウンド拡張整備と併せて障がい者スポーツの拠点としての整備を進めます。

障がい者用プール（新福祉友愛プール〈仮称〉）完成イメージ

2月28日（土）開催
車いすテニス教室の様子

第13回岐阜県障害者スポーツ大会 春大会「清流スポーツ大会」

第15回全国障害者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」の予選会を兼ね岐阜メモリアルセンターをはじめ、県内各会場で開催します。観戦は自由です。是非各会場へお越しください。

【大会期間】 2015年4月18日（土）～6月7日（日）

実施競技、実施日、会場、参加資格等は下記協会までお問合せください。　岐阜県障害者スポーツ協会　検索

一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会
TEL.058－273－1111（代表）